

仕事だけでは職場の環境は良くならない！

建設部門委員会報告

建設部門委員会

生公連署名の成果

九月七日に建設部門委員会、八・九日に第九回定期大会が滋賀県大津市の琵琶湖グランドホテルにて開催され、支部から西副委員長、田口副委員長、辻副委員長の三名が参加しました。

部門委員会、大会では、各職場の実情や教訓が報告され、議案は満場一致で採択されました。

辻さんからは生公連署名について「集約が厳しいとの報告はあるが、地域の仲間との協働が重要」と訴えました。本部からは地域の人たちへ状況を伝え、世論へ訴え、県国公などのつながりも重要であり、これまでの生公連署名運動の成果として、国会議員の紹介議員も増え、国土交通委員会では審議未了となったものの、足立議員（自民）からの要員確保の質問に対し、石井大臣が「このままでは、地方整備局などの使命を果たすことが困難」、「必要な定員の確保に最大限努力する」と答弁するまでの進展があったことの報

告があり、今後も定員・予算の確保などのためには生公連署名の役割が大きいことが示されました。

人事施策に不満も 生活費厳しく辞職

北陸からは「若い職員のコロコロ配転、独身寮がなく、生活費がかかり、辞職が多く、人事政策に不満がある」との意見があり、全国的に同じ問題が発生していることから、意見を集約して、解決するためにも組合の必要性を確認しました。

本省・関東で試行 テレワーク課題浮き彫りに

本部からは本省・関東で既に行われているテレワー

クについて「私用PCで外部から自分のクライアントPCへリモートコントロールで業務を遂行」しているが、一部システムに未対応、通信速度が低速、勤務時間中の授乳や介護の禁止などの課題が報告されました。

介護・育児との兼ね合いで有効な部分も有り、全否定するものではありませんが、利用者が使いやすく、適切に管理できる制度設計が必要です。

超勤の上限規制 時間ばかり注目

四月から始まった『超勤の上限規制』については超勤務時間の低減だけが先行し、仕事の効率化や無駄な内部資料削減などの具体的な方針が無く、定員も減る中、超勤務時間が少ない職場から依然として定員削減が行われている状況に、職場はシラケているとの意見がありました。組合提案とその実行に加え当局が時間管理だけでなく、業務量を減らす具体的な方策を提案するよう当局を追及することが意志統一されました。

責任ある業務の切捨て 業務委託の拡大

九州からは「従来は出張所で行っていた大型の堰の

操作が委託への動きがある」との報告があり、全国的な展開に発展する可能性があるとの懸念が示されており、注視していく必要があります。

期間業務職員の 常勤職員との乖離

期間業務職員は月に一八日以上の勤務がなければ退職金の期間に換算され無いという、週休二日制以前の制度が現在まで放置されており、ゴールデンウィークには一日でも休めば退職金が出ない可能性があるとして、制度改善を求める意見がありました。また、六年目の継続雇用が実現されていないことも問題です。

障がい者雇用の課題 労働組合が受け皿に

辻さんからは今年度から採用された障がい者の方からの意見として「障がい者枠での採用者の業務上の相談者が直接の上司等では相談がづらい」「同じように障がいを持って働く労働者の意見交流が必要」と報告しました。当局は相談者を設けても実質的に相談しやすい環境を整えているとは言えず、組合がその相談を受けている状況で、職場の不平不満を聞く組合の役割は重要です。

来賓挨拶の反対は？ 絶望の反対は？

来賓挨拶として開催地の国會議員の清水さんからはお笑い出身とのことで、巧みな話術で、「絶望の反対は？」と市民から聞かれ、希望と答えたところ、その人は「ユーモア」と答えたという。「どんだに落ちてしまい、閉じ込められてしまった人に希望を持てと言っても希望が持てるわけがない。そこでは何とか生きていかねばならないがそこに『ユーモア』があれば絶望の状態から一瞬でも気が晴れる」と言われたそうです。それを聞いて清水さんはお笑いの世界は奥が深いと改めて気づいたそうです。このほかにも専門的な



左から田口さん、辻さん、西さん

用語や難しい用語がぽんぽんと口から軽やかに出て、会場の参加者の笑いに関心的となっていました。

教合わせの障害者雇用 当事者が課題を語る

障がい者の仲間からは「毎日、写経のように法律を書き写している。基本給が少なく生活ができない」との発言もありました。

また、「受検箇所が全国に六箇所しかなく、各県に一箇所以上は欲しい。合格発表はネットと郵送で郵送の場合はネットと比べて一日遅れとなり、ネット確認できない人は不利になってしまふ」、「障がい者がバイ菌の様な扱いを受けた」など採用試験の課題や職場環境の課題が報告されました。

再任用の処遇改善 均等待遇を求め運動を

再任用職員の処遇課題については扶養手当・住居手当がつかず、宿舍も貸与されない等の課題について早期解決を求める意見が出され、均等待遇の取り組みとして今後も追及していくことが確認がされました。

今年は大署名で取組強化 「気事拡」は民間とともに

これまで三大署名として取り組んできた気象事業の拡充を求める署名については国土交通省の体制拡充に統合することとし、気象事業の充実には民間の団体等とともに一廻り大きな運動へと発展させていくことが確認されました。

「増やす仲間を増やす」 仲間作りの実践を

組織拡大では「活動がしづらくなっている。組合が遠慮している」等の意見が出る中で、「若い子はスマホなどを活用し、仲間作りが上手」「知らない人に勧誘されてもなかなか聞いてはもらえない、近くから確実な声かけが必要である」「航空部門では青年が自然に仲間を迎え入れている」等の発言があり、本部に組織拡大推進本部を立ち上げ「増やす仲間を増やす」とことが確認されました。

地域とのつながり運動の発展へ 外に出る運動で地域の仲間作りを

四国建設支部からは「トンネルじん肺訴訟は我々の先輩がトンネルの労働者がこれではいけないと言っで、地域の家を一軒一軒廻り調査したことが訴訟に発展したことを地域の仲間か

～青年活動 物品販売～ 名古屋で全国青年交流集会 よろしくね！

会場の後方では中部地方協議会の若手が物品販売を行っていました。夜の懇親会後にも、各部屋を廻って積極的な物品販売を行い、快く買っていただいた仲間のご協力により完売いたしました。皆様ご協力ありがとうございました。



↑ 中部地協の物資販売の様子

ら知らされた。地域に出ることで見えることも多い。地域から見える活動が必要」との発言があり、生公連署名などの取り組みが職場・地域から見える取り組みとするこの重要性を再認識しました。

子育てに優しく 通勤手当制度の改善を

近畿建設支部からは「育児のため施設へ預けるために通勤途中で回り道をするが、施設が遠いのに通勤手当は自宅から勤務先までしか支給されず、持ち出しが年間に十一万円もある」と報告され、子育てに非常に厳しい状況から、制度改善の運動が必要との認識で一致しました。

大会宣言も 満場一致で確認

大会宣言では、「八時間

三重県協ニュース 最優秀賞おめでとう！



安藤委員長より表彰を受ける辻さん

第八回機関紙コンクールでは、「三重県協ニュース」が定期発行部門で努力賞、企画・速報紙部門では最優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。これからも組合員のため、職員のため、さらに国民のために継続して広報活動を推進していきましょう。